

オピニオン

見過ごしてきた素材



日本地域資源開発経営学会会長

赤岡 功

42年兵庫県伊丹市生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士課程中途退学。05年県立広島大学長。07年から理事長兼任。07、09年全国公立大学協会副会長。

人々が生まれた風土、育った「ふるさと」には、全国の人々、世界の方々に知ってほしい、見てほしい地域の宝が数多くある。

しかし、全国や世界に発信できないまま、そうした宝の多くが消滅していく危機にひんしている。心ある人々や行政などが、保護や支援の手を差し伸べている例は多いが、それでも珠玉のような文化、自然、景観、祭りや行事、淳風美俗、産業が衰微しつつある。

それは、グローバル化の下で地域の活力の衰弱とともに進行しているが、地域が全国や世界に向かってその魅力を訴えたい宝は、経済的にみれば、固有資源ということが出来る。適切に開発し、経営すれば市場価値をもつからだ。

そうすれば、地域固有の宝は衰微するどころか、輝き始める。そして、人々は、子供も大人も高齢者も、男女を問わず、その土地に住む喜びを味わうことができ、経済は活性化し、潤いのある豊かな生活が再構築でき、それを持続

宝を磨き元気な村や街に

させることができる。現在、日本だけでなく、世界各地で、誇るべき文化、自然などが衰滅の危機に直面しており、そこからの脱出が強く望まれている。地域資源開発経営学は、その要請に応えることを目指している。

幸い、関係者の努力と状況とがうまく共鳴して、地域の宝が活性化につながってきている先進事例はある。また、その過程で若者にやりがいを感じさせ、その成長をはかる社会教育に大きな寄与をしている例もある。

若干の例をあげれば、広島神楽は、広島県と近隣では大隆盛をみせ、地域活性化に期待をもてる段階にあり、神楽に打ち込む若者が成長している。また、B級グルメの旗の下に地域固有の食材、食文化を生かした料理は、活性化に現に貢献している。宮島という景観、文化はすでに世界に向けての発信ができており、広島を中心とした広域エリアの活性化に寄与している。そこで、私たちは、全国や

世界に誇りうる地域固有の自然、文化、産業等々の開発とひとつくり、活性化の関係を研究し、実際に生かしていくため広島市に本部を置く全国学会を設立した。日本地域資源開発経営学会である。

7月7日に広島市内のホテルで創立大会と懇親会を開催したところ、両方で300人以上が集まり、華やかで元気なスタートとなった。会員は北海道、関東、北陸、中部、関西、広島に広がり、大学の研究者、企業、行政、大学院生と多様だ。入会の出足をみると千人を超えるのはそれほど遠くないと思っている。

われわれはこの学会に結果し、どのような地域をつくり上げていけばよいのか。私がよく暗誦する、茨木のり子さんの「六月」という詩を引用したい。

どこかに美しい村はないか／
一日の仕事の終りには一杯の
黒麦酒／
鎌をたてかけ 籠を
置き／男も女も大きなジョツ
キをかたむける

どこかに美しい街はないか／

食べられる実をつけた街路樹が／
どこまでも続き すみれ
いろした夕暮は／
若者のやさしいささめきで満ち満ちる

どこかに美しい人と人との力はないか／
同じ時代をともに生きる／
したしさとおかしさと
そうして怒りが／
鋭い力となつて たちあられる

風光る山里や紺碧の海と白砂青松の島々、朱色の鳥居・華麗な社殿回廊、並木の緑と花壇の美しい大通り、水量豊かな川に浮かぶ舟……。かつて悲しみに耐えて懸命に働いた路面電車が見事に復興した中を誇らしげに走る街・広島。田植えとき、夏越祭り、取り入れの秋、村や町のあちらこちらで笛や太鼓の音が鳴り始める、心が浮き立つ。

私は広島市に住んで8年になる。街角の彫刻や文学碑、風景など今でも新鮮な発見があつて、歩くのが本当に楽しいのだ。いいものが身の回りにはあるのを広島の人に見違へてはいないだろうか。素材は十分そろっている。それらを発見し、磨きをかけ、日本の各地で元気な村や街をつくり上げていきたい。

